

令和5年度 当初予算（案）

主な事業の説明書

教育委員会事務局

・・・・・・・・・・・・・・・・ 目 次 ・・・・・・・・・・・・・・・・

款	項	目	大	事	業	ページ
10	1	4	12	大仙グローバルジュニア育成事業費		9 - 1
10	1	4	14	学校生活支援事業費		9 - 2
10	1	4	21	キャリア教育推進「総合的な学力育成」事業費		9 - 3
10	1	6	90	大仙市学校施設再編整備基金積立金		9 - 5
10	2	1	14	学校施設改修事業費（小・中学校費）		9 - 6
10	3	1	14			
10	2	2	13	スクールバス運行事業費（小・中学校費）		9 - 7
10	3	2	13			
10	5	1	14	大仙アカデミー開催事業費		9 - 8
10	5	2	13	学校・家庭・地域連携総合推進事業費		9 - 9
10	5	3	21	四ツ屋公民館改築事業費		9 - 10
				学校給食事業特別会計		9 - 11
				奨学資金特別会計		9 - 13

※部ごとに款・項・目・大事业の順番とする。

事 業 説 明 書

継 続

SDGs
関連目標



10 款 1 項 4 目 12 事業

課所名：教育委員会事務局 教育指導課

『事業名』 **大仙グローバルジュニア育成事業費**

【R5年度】 **57,419 千円** 【R4年度】 **57,104 千円** 【増減額】 **315 千円**

※令和5年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
			272	57,147

※ALT住宅使用料返納金、ALT住宅保険料返納金

1. Plan (計画：事業の目的及び目標)

国際化の進展に伴い、重要視される国際理解及び外国語教育の充実のために、外国語指導助手(ALT)・国際交流員(CIR)を配置し、児童生徒の国際感覚、コミュニケーション能力の向上を図る。
また、グローバル人材の育成のために小学校外国語教育の指導体制を強化するとともに、児童生徒の体験活動の充実や教員の指導力向上のための体制整備の強化を図る。

2. Do (実行：これまでの実績と成果)

- 外国語指導助手等招致事業
令和4年度はALT・CIR計12人を配置し、中学校外国語科の学習指導に加え、小学校における外国語活動・外国語科の授業時数のおよそ半分はネイティブスピーカーとの授業が実施できる体制を整えている。
- グローバルジュニア・マイスター育成事業
令和4年10月末時点で、ブロンズ533人、シルバー185人、ゴールド45人、マイスター10人が認定されており、児童生徒の学習意欲の向上の一助となっている。
- 大仙イングリッシュ・デー
小学生92人、中学生8人が参加し、ALT・CIRとともに英語での活動及び交流を行った。

3. Check (評価：問題と課題)

ALT・CIRの配置校や授業時数を考慮しながら、児童生徒が生きた英語に触れる機会を保障することでコミュニケーション能力の素地や基礎が一層養われていくよう、効率的で効果的な派遣となるよう工夫・改善していく必要がある。

4. Act (改善：今後の方向性と令和5年度事業の概要)

●外国語指導助手等招致事業 57,301千円

ALT・CIRを配置し、中学校外国語の学習指導及び小学校外国語活動・外国語科の学習指導等を実施。配置人数について、令和4年度はALT11人・CIR1人を配置している。今後については、小学校外国語活動・外国語科の授業時数の増加や、学校規模によって異なるALTによる指導のバランス等を踏まえ、適切な配置としていきたい。

【ALT・CIR配置予定人数】

	R4年度	R5年度	R6年度
ALT	11	11	11
CIR	1	1	1
計	12	12	12

※令和5年度(予定)：新任ALT4人 (R4.3月退職ALT1人、帰国ALT2人、他自治体へ異動1人)

●グローバルジュニア・マイスター育成事業 98千円

児童生徒が海外の方々との英語等を使ったコミュニケーションや情報交換、観光案内など目的をもった交流活動を実施した場合に内容に応じてポイントを付与し、グローバルジュニア・マイスターに認定する。

●大仙イングリッシュ・デー 20千円

小・中学生を対象に、大仙市のALT・CIRとともに英語による活動及び交流を実施する。

●大仙グローバルジュニア・オンライン国際交流【ゼロ予算事業】

中学生を対象に、web会議システム等を活用した海外(英語圏)の方々とのオンライン交流を実施する。

事 業 説 明 書

継 続

SDGs
関連目標



10 款 1 項 4 目 14 事業

課所名：教育委員会事務局 教育指導課

『事業名』 **学校生活支援事業費**

【R5年度】 166,778 千円 【R4年度】 154,563 千円 【増減額】 12,215 千円

※令和5年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
742			33,020	133,016

※地域雇用基金繰入金

1. P l a n (計画：事業の目的及び目標)

小・中学校において、学校生活を送る上で様々な配慮が必要な児童生徒に対して支援員を配置し、個々の実情に応じたきめ細やかな支援を行うことにより教育環境の充実を図る。

2. D o (実行：これまでの実績と成果)

学校生活支援員等の配置により、学校生活を送る上で様々な配慮が必要な児童生徒に対し、きめ細やかで適切な支援ができています。

＜支援員等配置人数の推移＞

(単位：人)

職名	H30	R1	R2	R3	R4
①学校生活支援員	56	55	54	57	56
②日本語指導支援員	1	2	2	1	1
③学校生活看護支援員	1	1	1	1	1
④複式学級支援員	3	3	3	2	4
支援員(①～④)計	61	61	60	61	62
⑤教育アドバイザー	1	1	1	1	1

3. C h e c k (評価：問題と課題)

発達障がい等により、個別の支援を要する児童生徒への配慮の重要性は年々高まっている。また、発達の過程や学校・家庭の環境の変化に応じて、支援の必要性が高まるケースも増えている。支援員配置により、各校の実情に寄り添う支援体制の実現が課題である。

4. A c t (改善：今後の方向性と令和5年度事業の概要)

＜学校生活支援員等配置人数＞ (単位：人)

職名	R5
①学校生活支援員	57
②日本語指導支援員	1
③学校生活看護支援員	1
④複式学級支援員	4
支援員(①～④)計	63
⑤教育アドバイザー	1

＜要支援児童生徒数等＞ (単位：人)

年度	R2	R3	R4	R5	(対前年度比)
児童生徒数(全体)	5,096	4,999	4,889	4,661	(-4.7%)
要支援児童生徒数	454	477	544	555	(2.0%)
要支援児童生徒の割合	8.91%	9.54%	11.13%	11.91%	(7.0%)

・教育アドバイザーの配置

特別支援教育アドバイザーとして、指導者及び支援員と面談し、特別支援教育の具体的な支援方法や学校体制について助言することにより、一層の特別支援教育の充実を図る。

・GIGAスクールアシスタントの配置

令和3年度、各小中学校に情報端末を整備したことに伴い、その操作支援等を担う支援員を配置。令和5年度も引き続き配置し、各小中学校におけるICT教育の充実を図る。

事 業 説 明 書

10 款 1 項 4 目 21 事業

拡 充

SDGs
関連目標



課所名：教育委員会事務局 教育指導課

『事業名』 **キャリア教育推進「総合的な学力育成」事業費**

【R5年度】 **3,937 千円** 【R4年度】 **2,844 千円** 【増減額】 **1,093 千円**

※令和5年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
	1,932			2,005

1. P l a n (計画：事業の目的及び目標)

本市の教育目標である「生きる力を育み、社会を支える創造力あふれる人づくり」の実現のため、キャリア教育・ふるさと教育をより充実したものにするとともに、地域と関わる活動を通じて、ふるさとを愛する心を育て、地域の将来を担う人材の育成を目指す。

2. D o (実行：これまでの実績と成果)

- ・「大仙ふるさと博士育成」事業は児童生徒が地域行事等への参加や、企業・施設等での見学・体験など、地域と関わる活動に取り組むことにより、ふるさとの良さの再確認や新たな発見につながっている。また、地域行事やイベント等においても児童生徒の活躍する姿が見られ、地域の将来を担う人材育成に有意義な事業となっている。
(H28～R3までの認定者 初級 5,423人 中級 3,132人 上級 803人 名誉博士 156人)
- ・部活動指導員が配置されたことで教員の部活動に係る時間軽減となり、児童生徒へより充実した教育を行うことができた。

3. C h e c k (評価：問題と課題)

- ・人権ユニバーサル事業は新型コロナウイルス感染症の影響で、企画していた事業内容を実施できない年度が続いたため、今後は企画の削減を検討する。
- ・部活動の地域移行は受入先の団体や指導者の確保、保護者の経済的な負担などの様々な問題点が想定されるため、新たな体制構築に向けて慎重に協議を進める必要がある。

4. A c t (改善：今後の方向性と令和5年度事業の概要)

【令和5年度事業の概要】詳細は次のページのとおり (単位：千円)

事業名	金額
①教育アドバイザー設置事業	619
②「大仙ふるさと博士育成」事業	259
③地域人権啓発活動活性化事業「人権ユニバーサル事業」	348
④プログラミング教育推進事業	15
⑤情報モラルいじめ対策事業	ゼロ予算事業
⑥大仙教育メソッド推進事業 (隔年実施事業)	ゼロ予算事業
⑦部活動指導員配置事業	1,199
⑧部活動の地域移行に向けた支援事業	1,497
合計	3,937

①教育アドバイザー設置事業・・・619千円（報酬・旅費・通勤手当）
1人を設置し、児童生徒の心の支援や保護者の教育支援、教職員の指導支援を継続して実施する。

②「大仙ふるさと博士育成」事業・・・259千円（消耗品費：認定証、認定缶バッジ作成等）
地域と関わる活動を通してふるさとを愛する心を育て、地域の将来を担う人材の育成を目指す。
●企業見学DAY（R4実施：エイブリック株式会社、アネスト岩田株式会社、三共光学工業株式会社、株式会社 秋田今野商店、宮腰精機株式会社、アゼアスデザインセンター秋田、株式会社 タニタ秋田）
●ふるさと農業体験DAY（R4実施：大仙市農業振興情報センター、農事組合法人たねっこ、秋田県立農業科学館）

③地域人権啓発活動活性化事業「人権ユニバーサル事業」・・・348千円
障がい者スポーツ体験教室や講演会を通して障がい者理解を深め、人権について考える機会とする。
●障がい者スポーツ（車いすバスケットボール）体験教室（R5実施 大曲西中他希望校）
●障がい者理解教育研修会

④プログラミング教育推進事業・・・15千円（旅費）
小中学校におけるプログラミング教育必修化を受け、実績のある講師を招いて教員向けの研修会を開催し、教職員のプログラミング教育指導を支援する。
※講師は、県内で既に指導実績のある秋田県立大学の准教授に依頼予定 ※年4回開催予定

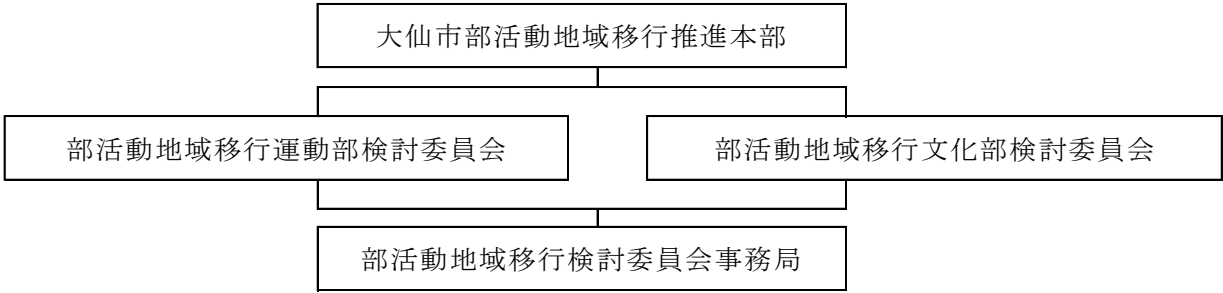
⑤情報モラルいじめ対策事業 【ゼロ予算事業】
県や警察署等と連携を図り、情報モラルに関する講演会を小・中学校で開催し、児童生徒が安全・安心にインターネット等を利用できるよう、啓発を図っていく。
なお、令和元年度からはゼロ予算事業として実施している。

⑥大仙教育メソッド推進事業（隔年実施事業）【ゼロ予算事業】
地域活性化に寄与できる人材とその能力を伸ばす教育として、平成28年度に「大仙教育メソッド」を立ち上げた。令和5年度から、作成したメソッドはホームページに掲載する等の方法で周知する。

⑦部活動指導員配置事業・・・1,199千円（報酬・労災保険料・通勤費用・旅費）
学校の働き方改革の観点からの支援で、教員の部活動に係る時間の軽減を図る。
[配置予定]※各1人

R3	R4	R5
協和中柔道	協和中柔道	協和中柔道
	中仙男子バスケ	協和中ソフトテニス（新）
		中仙中男子バスケ
		大曲西中柔道（新）

⑧部活動の地域移行に向けた支援事業・・・1,497千円（報酬・旅費）
令和5年度以降、休日の部活動の段階的な地域移行と地域スポーツ・文化環境の一体的な整備が推進されることから、連絡調整、指導助言を行うコーディネーター（運動部1人・文化部1人）の配置や協議会の設置等の体制を構築する。
■部活動地域移行のための組織（案）



事 業 説 明 書

新 規

SDGs
関連目標



10 款 1 項 6 目 90 事業

課所名：教育委員会事務局 教育総務課

『事業名』 **大仙市学校施設再編整備基金積立金**

【R5年度】 50,000 千円 【R4年度】 0 千円 【増減額】 50,000 千円

※令和5年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
				50,000

1. Plan (計画：事業の目的及び目標)

学校施設の再編及び整備を計画的に推進するための財源を確保することを目的に基金を設置する。

2. Do (実行：これまでの実績と成果)

3. Check (評価：問題と課題)

4. Act (改善：今後の方向性と令和5年度事業の概要)

■大仙市学校施設再編整備基金積立金 50,000千円

少子化の影響による児童生徒数の減少や、学校施設の老朽化に伴う学校施設の再編及び整備を計画的に推進するための財源を確保する。

・令和4年度末残高（見込み）	100,000,000 円 ①
・令和5年度積立額（当初予算）	50,000,000 円 ②
・令和5年度末残高見込み(①+②)	150,000,000 円

■学校数及び児童生徒数の比較(4月1日時点)

	H17 ①	R4 ②	比較 ②-①
小学校数(校)	31	20	△ 11
児童数(人)	4,802	3,103	△ 1,699
中学校数(校)	12	10	△ 2
生徒数(人)	2,702	1,734	△ 968
学校数(校)	43	30	△ 13
児童生徒数(人)	7,504	4,837	△ 2,667

■学校施設を取り巻く現状と課題、今後の方向性

- ・合併当初、43校だった学校数は、「新しい時代の学校教育だ いせんビジョン」を踏まえた学校統合により、現在は30校となっているが、大曲、東部地域は統合が進んでいない。
- ・少子化の影響により、児童生徒数は合併当初と比較し、2,667人の減、率にして35.5%減少している。
- ・学校の維持管理費や運営費は、学校統合により一時的に縮減したものの、用務員・校務員や学校生活支援員などの会計年度任用職員の昇給や、施設・設備の老朽化による維持補修費の増加、電気・燃料費を含めた物価高騰による経費の増加が予想される。
- ・トイレや受電設備などの「設備」は年次計画で更新してきたが、建築後30年以上経過している校舎・屋内運動場が7割を超えており、今後、校舎の屋上防水工事や外壁、内部改修など、「施設」の改修が必要となってくる。

■普通建設事業費の推移 (単位：千円)

年度	内容	小学校	中学校
H29	受電設備、トイレ改修	212,091	138,212
H30	受電設備、トイレ改修、曲中プール	229,162	225,645
R1	受電設備改修、空調設置	337,494	310,345
R2	トイレ改修、空調設置、花小増築	516,265	63,734
R3	トイレ改修、空調設置	57,405	396,453

児童生徒数の減少や、施設の老朽化の状況を踏まえ、より良い教育環境の確保、効率的・効果的な施設整備によるトータルコストの縮減を目指し、学校施設の再編整備の方向性を検討する。

事 業 説 明 書

新 規

SDGs
関連目標



10 款 2/3 項 1 目 14 事業

課所名： 教育委員会事務局 施設管理課

『事業名』 **学校施設改修事業費（小・中学校費）**

【R5年度】	66,659 千円	【R4年度】	0 千円	【増減額】	66,659 千円
【小学校費】	37,432 千円		0 千円		37,432 千円
【中学校費】	29,227 千円		0 千円		29,227 千円

※令和5年度事業費の財源内訳

	国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
【小学校費】			27,000	10,432	
【中学校費】			21,900	7,327	

※公共施設適正管理基金繰入金

1. P l a n（計画：事業の目的及び目標）

学校施設の改修又は整備を図り、快適で安全安心な学校施設環境を提供することを目的とする。

2. D o（実行：これまでの実績と成果）

定期的に学校施設の改修を実施し、快適な学校施設環境の整備を図ってきた。

【大規模改修実績】

実施年度		H30	R1	R2	R3	R4
事業内容		受電設備、 屋根改修 等	屋外階段、 屋根改修 等	校舎増築、 防水改修 等	さく井、 防水改修 等	さく井、 防水改修 等
件数	小学校	3件	3件	4件	3件	4件
	中学校	3件	1件	1件	1件	0件

3. C h e c k（評価：問題と課題）

建築後30年以上を経過している校舎・屋内運動場が7割超となっていることから、各学校施設の改修計画には多額の予算が見込まれている。策定された長寿命化計画を基に、学校施設の規模に合わせた計画的な改修を行うことで、改修費の縮減や平準化を図る必要がある。

4. A c t（改善：今後の方向性と令和5年度事業の概要）

【大規模改修工事等】

・緊急度又は危険度の高い次の大規模改修工事等を実施する。

（単位：千円）

事 業 名	概 要	事業費
神岡小学校体育館屋根改修工事	屋根改修（カバー工法）	36,091
西仙北中学校校舎屋上防水改修工事	屋上防水改修	29,227
旧神岡学校給食センター解体工事実施設計業務委託・石綿調査	解体工事の実実施設計業務・石綿調査	1,341
合 計		66,659

※ 令和4年度予算までは「校舎等維持補修及び施設整備費」としていた事業を、令和5年度予算から施設整備費分を「学校施設改修事業費」として細分化した。

事 業 説 明 書

継 続

SDGs
関連目標



10 款 2/3 項 2 目 13 事業

課所名：教育委員会事務局 教育総務課

『事業名』 **スクールバス運行事業費（小・中学校費）**

【R5年度】	186,021 千円	【R4年度】	186,204 千円	【増減額】	△ 183 千円
【小学校費】	125,148 千円		124,277 千円		871 千円
【中学校費】	60,873 千円		61,927 千円		△ 1,054 千円

※令和5年度事業費の財源内訳

	国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
【小学校費】	7,625				117,523
【中学校費】	9,615				51,258

1. P l a n（計画：事業の目的及び目標）

- ・この事業は、学校統合により遠距離通学となる児童生徒の登下校時の安全を確保するとともに、通学難の解消を図ることを目的とする。
- 目標：交通事故等 0 件

2. D o（実行：これまでの実績と成果）

- ・遠距離通学となる児童生徒の安全な登下校の確保と通学難の解消が図られている。
- ・直営での運行の場合は、児童生徒数が減少しても車両維持費等が発生するが、バス事業者へ業務委託をすることで業務の効率化が図られている。また、利用する児童生徒数に応じて路線や車両台数を減らす等、柔軟な運行に対応することができ、節減効果が図られている。

3. C h e c k（評価：問題と課題）

- ・少子化により対象者は減少傾向にあるが、学校再編により学校の統合が進み遠距離通学区域が増えてきている。また、現在直営で運行している神岡地域（1台）・南外地域（3台）のバスは、登録から17年以上経過し劣化が進んでいることから、更新を検討する必要がある。

4. A c t（改善：今後の方向性と令和5年度事業の概要）

（令和5年度事業の概要）

- ・令和5年度においても前年度と同様の業務形態で事業の継続を予定している。また、利用者の減少に応じて車両台数の減やバスサイズの縮小など柔軟に対応していく。

学校名	利用人数（人）	業務形態	経費（千円）	委託業者名	備考
神岡小学校	28	直営	999		1台
西仙北小学校	128	業務委託	63,732	株式会社仙建 (R4～R8)	
中仙小学校	54	業務委託	26,815	羽後交通株式会社 (R3～R7)	
豊成小学校	47	業務委託	31,525	羽後交通株式会社 (R3～R7)	
南外小学校	32	直営	2,077		小中共用3台
西仙北中学校	62	業務委託	31,618	株式会社仙建 (R4～R8)	
中仙中学校	42	業務委託	28,210	羽後交通株式会社 (R3～R7)	
南外中学校	3	直営	1,045		南外小学校に同じ
合 計	396		186,021		

事 業 説 明 書

拡 充

SDGs
関連目標



10 款 5 項 1 目 14 事業

課所名：教育委員会事務局 生涯学習課

『事業名』 **大仙アカデミー開催事業費**

【R5年度】 1,377 千円 【R4年度】 884 千円 【増減額】 493 千円

※令和5年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
				1,377

1. P l a n (計画：事業の目的及び目標)

【目的】 市民が地域における「つながり」「絆」を再認識し、地域づくりへ積極的に参画するための学びの場として、「市民が主役の地域づくり講座」を開催することで、地域の元気力向上を図ることを目的とする。

【目標】 定員である300人の参加を達成する。

2. D o (実行：これまでの実績と成果)

【令和4年度の開催状況】

- 第1回：日時：令和4年10月1日 14:00～15:30 参加者数：約250人
講師：(株)タニタ代表取締役社長 谷田千里氏 演題：大仙から世界の健康を「つくる」
- 第2回：日時：令和5年2月18日 14:00～15:30
講師：(株)コンボン研究所代表取締役所長 菊池昇氏 演題：高質な田舎とテクノロジー

3. C h e c k (評価：問題と課題)

- ・人生100年時代を迎え、市民の学習したい分野はますます多様化しており、学習ニーズに応じた講師の選定が難しい。
- ・各界の第一線で活躍されている方々を講師に招くことを計画しているため、講演料等が高額になることが予想される。

4. A c t (改善：今後の方向性と令和5年度事業の概要)

(1) 事業概要

各界の第一線で活躍されている方々を講師に、様々な観点からの経験と広い視野に基づいた内容の講座を開催する。
令和5年度：年3回（7月・10月・2月）の事業実施を予定

(2) 事業費の内訳

名称	内容	金額(円)	予算額(千円)
報償費	講師謝礼 (@300,000×3人分)	900,000	900
	講師交通費・宿泊費等 (3人分)	231,520	232
印刷製本費	告知用チラシ (3,000枚)	52,000	52
	広告用ポスター (150枚)	151,000	151
消耗品費	印刷用ロール紙、卓上花、事務用消耗品	42,000	42
	合計		1,377

(3) 今後の方向性

各界を代表する方々を講師にお招きする講演会を年3回実施していくことで地域づくりへ参画するための市民の意識啓発につなげる。

事業説明書

継 続

SDGs
関連目標



10 款 5 項 2 目 13 事業

課所名：教育委員会事務局 生涯学習課

『事業名』 学校・家庭・地域連携総合推進事業費

【R5年度】 4,104 千円 【R4年度】 4,328 千円 【増減額】 △ 224 千円

※令和5年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
	2,584			1,520

1. Plan（計画：事業の目的及び目標）

- 【目的】時代の変化に伴い学校と地域の課題が複雑化・多様化する中、「子どもたちの人間力の育成」と「地域住民が主体的に地域活動に参画する機会の創出」を包括的に推進するため、学校と地域がパートナーとして連携・協働し地域の教育力を高めるための仕組みを構築する。
- 【目標】計画に基づき、令和9年度まで地域の教育力向上のための体制を整える。

2. Do（実行：これまでの実績と成果）

(1) 令和4年度の主な実績

- ①地域学校協働活動推進員 新規推進員(30人中7人)も加わり、人材の活性が図られている。
- ②地域学校協働活動 市広報に活動の特集記事を掲載し、事業の周知を図った。
- ③学校運営協議会 全小中学校への設置に先駆け、太田地域で先行導入し活動を開始(学校運営協議会＝コミュニティ・スクール)

(2) 成果

令和4年度に太田地域で大仙市初のコミュニティ・スクールが導入され、地域学校協働活動との一体的推進につながる大きな一歩となった。

3. Check（評価：問題と課題）

事業推進体制を強化するためには、全地域において地域学校協働活動の拠点となる体制を構築し、つながりづくりのネットワーク化を図る必要がある。

4. Act（改善：今後の方向性と令和5年度事業の概要）

(1) 令和5年度事業の概要

単位：千円

項目	R5		R4		前年比較		予算額増減理由
	予算額 ①	一般財源 ②	予算額 ③	一般財源 ④	予算額 ①-③	一般財源 ②-④	
共通経費	1,206	418	1,169	485	37	△ 67	CSディレクターの活動経費の増
協働活動	1,440	516	1,693	703	△ 253	△ 187	活動内容の効率化による減
放課後子ども教室	1,246	514	1,280	618	△ 34	△ 104	地域人材ボランティアの活用による減
家庭教育支援	212	72	186	96	26	△ 24	親子参加型事業の増
合計	4,104	1,520	4,328	1,902	△ 224	△ 382	

(2) 今後の方向性

～さらなる地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的推進のための施策として～
全市小中学校への導入に向けた、段階的コミュニティ・スクール設置の実施

◆コミュニティ・スクール（CS）導入設置スケジュール（案）

※連携公民館：地域学校協働本部事務局

中学校区	対象学校	連携公民館	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
1 太田 (モデル地区)	太田東小・太田南小・太田北小・太田中	太田公民館	準備	設置					
2 西仙北	西仙北小・西仙北中(西仙北高校：県教委)	大綱交流館		準備	設置				
3 協和	協和小・協和中	協和公民館		準備	設置				
4 平和	神岡小・平和中	神岡中央公民館			準備	設置			
5 南外	南外小・南外中	南外公民館			準備	設置			
6 中仙	中仙小・清水小・豊成小・中仙中	中仙公民館			準備		設置		
7 仙北	高梨小・横堀小・仙北中	仙北公民館			準備		設置		
8 大曲西	大川西根小・内小友小・大曲西中	未定				準備		設置	
9 大曲南	角間川小・藤木小・大曲南中	未定				準備		設置	
10 大曲	大曲小・東大曲小・花館小・四ツ屋小	未定					準備		設置

事 業 説 明 書

継 続

SDGs
関連目標



10 款 5 項 3 目 21 事業

課所名： 教育委員会事務局 生涯学習課

『事業名』 **四ツ屋公民館改築事業費**

【R5年度】 **485,083 千円** 【R4年度】 **4,754 千円** 【増減額】 **480,329 千円**

※令和5年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
		450,800	24,533	9,750

1. **P l a n** (計画：事業の目的及び目標) ※公共施設適正管理基金繰入金 4,152
※地域振興基金繰入金 20,381

【目的】 四ツ屋公民館は昭和55年の建築から築40年以上が経過し、経年劣化により運営コストが年々嵩んできている。また、耐震診断の結果、体育館部分の耐震補強対策も必要なことから、四ツ屋公民館を改築する。改築後は、生涯学習施設のみならず、防災拠点の役割を担うほか、地域住民が寄り添い、時代のニーズに対応可能な「地域の拠点施設」となることを目指すもの。

【目標】 令和5年度中の供用開始及び令和6年度中の事業完了を目指す。

2. **D o** (実行：これまでの実績と成果)

「四ツ屋地区コミュニティ会議」「四ツ屋地区新しいまちづくり推進プロジェクト委員会」が、地区住民の意見や要望を取り入れて作成した「四ツ屋地区地域ビジョン(平成28年3月)」の方向性を尊重し、新たな拠点施設を整備するため、基本・実施設計を終え、令和4年度から建築工事を進めている。

【令和4年度事業】 ①基本・実施設計業務委託 (令和3、4年度継続費)
②建築・設備工事、設計・工事監理業務委託 (令和4、5年度継続費)

3. **C h e c k** (評価：問題と課題)

- ・経年劣化等による施設や設備の維持管理費が嵩んできている。また、耐震診断判定でも、体育館棟については耐震補強等の対策が必要である。
- ・新型コロナウイルス等の社会情勢の影響から資材の価格高騰により経費の増額が見込まれる。

4. **A c t** (改善：今後の方向性と令和5年度事業の概要)

○令和5年度四ツ屋公民館改築事業の概要

(1) 四ツ屋公民館本体工事 406,373千円
四ツ屋公民館は、生涯学習施設に放課後児童クラブを集約するほか、防災拠点としての役割も担える施設として整備するため、令和4年度からの継続費として計上し、公民館の建設工を行う。

(2) 旧四ツ屋公民館解体工事 67,353千円
新しい四ツ屋公民館が10月から開館した後、旧公民館の解体工事を令和5～6年度に行う。

(3) 施設物品の整備等 10,549千円
利用者の利便性の向上を図るため、必要な物品の購入や施設環境の整備等を行う。

(4) 物品収納用倉庫建築にかかる設計委託 808千円
令和6年度に災害時の備蓄品や発電機等を収納する倉庫を建設する予定であることから、その設計業務を委託する。

(5) 工事全体事業費の内訳及び移築スケジュール

No.	業務区分	事業費 (千円)	実施 年度	改築スケジュール				備 考
				R3	R4	R5	R6	
1	調査・測量業務等	11,605	R3					・用地測量、地質調査等
2	基本・実施設計	25,696	R3-R4					・R3、R4継続事業
3	建築・設備工事	67,318	R4(14%)					・R4.6月補正 R4、R5継続事業 ・R5年秋頃の供用開始を予定
		396,993	R5(86%)					
4	設計・工事監理業務委託	1,489	R4(14%)					・供用開始後、既存施設を解体 ・R5、R6継続事業
		9,380	R5(86%)					
5	解体工事	65,626	R5(63%)					・R5、R6継続事業
		38,544	R6(37%)					
6	設計・工事監理業務委託	1,727	R5(63%)					・R6.10月グランドオープン予定
		1,021	R6(37%)					
7	外構工事(大型倉庫含む)	83,852	R5-R6					・R6.10月グランドオープン予定
	事業費計	703,251						

事 業 説 明 書

継 続	SDGs 関連目標				款 項 目 事業
					課所名： 教育委員会事務局 学校給食総合センター

『事業名』 **学校給食事業特別会計**

【R5年度】 1,051,360 千円 【R4年度】 1,318,499 千円 【増減額】 △ 267,139 千円

※令和5年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
			312,466	738,894

1. P l a n (計画：事業の目的及び目標)

大仙市内の児童生徒に安全安心な学校給食を提供し、学校給食の充実及び食育の推進を図る。
 ・目標：食中毒事案及び食物アレルギー事故 年間0件

2. D o (実行：これまでの実績と成果)

・衛生管理体制の強化のため、全給食センターが秋田県食品自主的衛生管理認証(秋田県HACCP認証)を取得している。

【各センターの秋田県HACCP認証取得状況】

総合	西部	東部	仙北
H26.10取得 (R01年度更新)	H28.5取得 (R03年度更新)	H27.8取得 (R2年度更新)	H30.6取得 (R05年度更新)

・給食費納付金
 保護者の申出により児童手当からの特別徴収を実施し、滞納繰越分の収納率向上に努めている。

【給食費納付金収納率の推移】

	H29	H30	R1	R2	R3
現年分	98.78 %	98.97 %	99.01 %	98.83 %	98.70 %
滞繰分	11.98 %	20.17 %	16.29 %	19.63 %	9.8 %

3. C h e c k (評価：問題と課題)

・各センターの建物、厨房設備及び機械設備等の経年劣化に伴う故障、不具合が年々増加しているため、大規模修繕工事や給食運搬車の更新等、今後も計画的な実施が必要である。

4. A c t (改善：今後の方向性とR5年度事業の概要)

・児童生徒の心身の健全な発達に資する安全安心な給食を提供していく。

【食数内訳】

食数	小学校	小学校職員	中学校	中学校職員	センター職員	認定こども園1号認定	認定こども園2号認定	計
人数	2,964人	442人	1,698人	249人	113人	14人	171人	5,651人
日数	190日	190日	190日	190日	200日	200日	276日	—
単価	270円	270円	300円	300円	300円	290円	290円	—

【予算内訳】

施設区分	事業名	金額(千円)
全体	職員人件費、公債費、予備費	194,556
総合	運営委員報酬、給食材料費、車両費、管理及び運営費、調理運搬委託等	664,578
西部	給食材料費、車両費、管理及び運営費	80,830
東部	〃	60,653
仙北	〃	50,743
合 計		1,051,360

(今後の方向性)

・児童生徒数の減少が進むことが想定されるため、センター統廃合を進める。

令和5年度給食センター・学校別給食数集計表(見込)

総食数	こども園園児	小学校児童	小学校職員	中学校生徒	中学校職員	センター職員
5,651	185	2,964	442	1,698	249	113

学校給食総合センター								合計	2,967		
	小学校	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	児童数計	職員	計	
1	大曲小学校	105	143	101	121	102	123	695	65	760	
2	東大曲小学校	14	15	15	10	20	15	89	19	108	
3	花館小学校	63	65	80	59	73	54	394	48	442	
4	内小友小学校	10	9	14	22	6	15	76	16	92	
5	大川西根小学校	8	18	10	8	9	9	62	16	78	
6	藤木小学校	11	9	8	11	7	11	57	13	70	
7	四ツ屋小学校	17	24	24	23	19	15	122	20	142	
8	角間川小学校	11	10	13	15	6	15	70	17	87	
9	南外小学校	16	15	15	21	11	13	91	17	108	
計		255	308	280	290	253	270	1,656	231	1,887	
	中学校	1年生	2年生	3年生				生徒数計	職員	計	
1	大曲中学校	249	244	246				739	66	805	
2	大曲西中学校	20	24	24				68	18	86	
3	大曲南中学校	24	18	24				66	19	85	
4	南外中学校	14	16	12				42	18	60	
計		307	302	306				915	121	1,036	
1	給食センター								44	44	

西部学校給食センター								合計	1,038		
	小学校	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	児童数計	職員	計	
1	神岡小学校	26	32	24	38	29	33	182	25	207	
2	西仙北小学校	39	30	36	33	43	41	222	26	248	
3	協和小学校	24	20	22	26	29	22	143	21	164	
計		89	82	82	97	101	96	547	72	619	
	中学校	1年生	2年生	3年生				生徒数計	職員	計	
1	平和中学校	37	35	32				104	20	124	
2	西仙北中学校	50	38	47				135	20	155	
3	協和中学校	39	23	36				98	17	115	
計		126	96	115				337	57	394	
1	給食センター								25	25	

東部学校給食センター								合計	964		
	小学校	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	児童数計		計	
1	中仙小学校	16	23	24	26	28	23	140	20	160	
2	清水小学校	8	7	13	12	14	7	61	16	77	
3	豊成小学校	12	15	13	18	23	15	96	19	115	
4	太田東小学校	11	8	10	11	14	15	69	18	87	
5	太田南小学校	11	16	13	14	17	14	85	16	101	
6	太田北小学校	3	6	5	7	6	8	35	14	49	
計		61	75	78	88	102	82	486	103	589	
	中学校	1年生	2年生	3年生				生徒数計	職員	計	
1	中仙中学校	48	66	53				167	27	194	
2	太田中学校	41	47	46				134	22	156	
計		89	113	99				301	49	350	
1	給食センター								25	25	

仙北学校給食センター								合計	682		
	認定こども園							園児計	職員	計	
1	せんぼくちびっこランド	117						117		117	
2	おおたわんぱくランド	68						68		68	
計		185	0	0	0	0	0	185	0	185	
	小学校	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	児童数計	職員	計	
1	高梨小学校	23	33	25	32	34	32	179	20	199	
2	横堀小学校	13	13	14	16	17	23	96	16	112	
計		36	46	39	48	51	55	275	36	311	
	中学校	1年生	2年生	3年生				生徒数計	職員	計	
1	仙北中学校	49	52	44				145	22	167	
計		49	52	44				145	22	167	
1	給食センター								19	19	

事 業 説 明 書

継 続	SDGs 関連目標	 	款 項 目 事業 課所名：教育委員会事務局 教育総務課
------------	--------------	---	--------------------------------

『事業名』 **奨学資金特別会計**

【R5年度】 25,199 千円 【R4年度】 25,908 千円 【増減額】 △ 709 千円

※令和5年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
			21,982	3,217

※奨学資金貸付金元金収入他

1. P l a n (計画：事業の目的及び目標)

経済的理由で進学を断念することのないよう大学生等及び高校生に奨学金を貸与し、有能な人材の育成を図ることを目的とする。

- 月額奨学金（大学生等4万円/月、高校生2万円/月）を大学生等20人、高校生10人に貸与する。
- 特別奨学金（入学一時金：大学生等10万円、高校生5万円）を大学生等10人、高校生5人に貸与する。

2. D o (実行：これまでの実績と成果)

(1) 市町村合併以降、362人の学生・生徒に奨学金を貸与している。

【過去5年間の新規貸与者数の推移】 (単位：人)

	30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
大学生等	8	10	15	11	5
高校生	0	1	0	0	0

(2) 21年度に有能な人材の地元定着を図るため、ふるさと就職者償還免除制度を設けた。令和4年度までに25人が要件を満たし、償還金を免除した。

3. C h e c k (評価：問題と課題)

平成20年度以降、滞納繰越分の収納率が毎年低下していることから、滞納者の個々の実情を考慮しつつ、市民部債権管理課と連携を取りながら適切に対処する必要がある。

4. A c t (改善：今後の方向性と令和5年度事業の概要)

【奨学金貸与額】 19,490千円

認定年度	種類	区分	人数	金額 (千円)
令和5年度 (新規)	月額奨学金	大学生等	20	9,600
		高校生	10	2,400
	特別奨学金	大学生等	10	1,000
		高校生	5	250
平成30年度～令和4年度	月額奨学金	大学生等	13	6,240
		高校生	0	0
			合計	19,490

【事務費】 26千円

【奨学基金積立金】 5,683千円

令和5年度に見込まれる元金収入等から奨学資金貸付金や事務費を差し引いた額を基金に積み立てる。

(今後の方向性)

- ① ふるさと就職者償還免除制度の条件を満たし、令和4年度までに償還金が免除となった者が25人となった。今後も免除となる者が見込まれることから、免除により発生する歳入不足については、一般会計からの繰入金で対応し、基金の残高を確保していく。
- ② 償還金の滞納については、滞納者個々の実情を考慮しつつ分割納付を促すと共に、状況によっては、支払督促の発送も視野に入れて対応していく。